



大阪部会(第 47 回)

日 時: 2016 年 2 月 6 日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 47 回の大阪部会の出席者は 10 名。

(1)まず、野間(同志社大学)から、経済教育ネットワークの最近の動向について報告した。東京部会、名古屋部会の様子や、1月23日(土)の「冬の経済教室 in 東京」、30日(土)の「冬の経済教室 in 札幌」の内容が紹介された。あわせて、2016年3月19日(土)の年次大会(同志社大学)で予定されているシンポジウムや講演のテーマが紹介された。その後、2016年8月日本取引所と共催の経済教室について協議し、大阪は8月8日(月)が中学校の部、9日(火)が高等学校の部となった。

(2)次に、上畑直久氏(京都市立栗陵中学校)から、地理の授業教材「近畿地方—環境保全に着目して—」が発表された。自然環境、気候、産業などの面から近畿を概観し、近畿での環境保全のとりくみを学んだ後、京都における景観保全政策について調べ、考え、意見交換をするという構成になっている。京都市には景観条例のような特徴的な政策があり、古都税や京都駅など、たびたび景観問題が論争になってきた。この授業では、望ましい景観政策を考えることよりも、景観をめぐるいろいろな立場の人がいて、ある出来事から利益を得る人もいれば損をこうむる人もいることを理解させようとしている。

出席者からは、他府県との景観政策の比較を通して近畿全体の理解につなげたいという意見や、外国人による日本ガイドブックを使うと、景観など地域資源に新しい視点が見られるなどのアドバイスがあった。

(3)次いで、大塚雅之氏(三国丘高校)から「三国丘高校等学校のSGHの取組みについて」という活動報告があった。三国丘高校は文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定されている。その機会を活かして、国内での学習、海外でのフィールドワーク、それらをビジネスプランの作成に結びつける、という長期にわたる段階的なグローバル活動を生徒に体験させた。訪問地として選ばれたのはフィリピンの貧困地域であり、訪問前の国内学習ではアジア開発銀行などの助力も得て、貧困問題や経済開発の手法を学んだ。また現地では、フィリピンの大学生とともに英語で意見交換しながら貧困問題の改善につながるビジネスアイデアを育み、帰国後にはビジネスプランを練り上げて、日本政策金融公庫が主催するコンテストに応募した。

出席者からは、活動のレベルやグローバルさに感嘆する声もある一方、日本国内の貧困地域や、ビジネスモデルづくりに苦労している地域について、もっと学ぶべきではないかという意見や、この活動によって、生徒にどのようなことを身につけさせたいのかが見えにくい、などの意見も出された。

(4)引き続いて関本祐希氏(大阪府立交野支援学校四條畷校)から「2016年度公立高校入試問題の分析と授業へのヒント」が報告された。関本氏は、3月の年次大会の第二部で、奥田修一郎氏(狭山市



立南中学校)、山下豊氏(札幌市立簾舞中学校)とともに、シンポジウム「高校入試問題を活用した新しい中学経済教育」のパネラーであり、その内容を一部先取りした報告であった。年次大会当日は、2016年度入試問題の分類と傾向を分析した後、それらを授業内容に活かす提案がされる予定である。

関本氏の資料とあわせて李洪俊氏(長吉中学校)から、興味深い高校入試問題を抜粋しコメントや活かし方などのメモを加えた資料が配られた。出席者の多くが、資料(グラフ・数字)の読み取りや考えさせる問題が増えているなど、入試問題が変化している点で意見が一致した。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2016年4月9日(土)、時間は18:00~20:00、場所は未定。